

平成 30 年度公開講座 “助産師の専門的実践のために必要な知識・スキル”

受 付 9:00～
講義・演習 9:30～12:30
場 所 医学部保健学科 東研究棟 601 講義室

日 付	講 師	テ ー マ	講 義 内 容
6月9日(土)	鹿児島大学医学部 教授 根路銘 安仁	「遺伝学」から「ゲノム学」の時代に助産師に求められること	「遺伝学」と聞いてどのようなことを思いますでしょうか？助産師では遺伝子異常の代謝性疾患や染色体異常などが真っ先に思いつくのではないのでしょうか。科学技術の進歩により全ゲノム解析が終了しました。これまでの遺伝学に加えて、がんなどの多因子疾患の発症要因を含めヒトの多様性について科学的に説明できることが多くなってきました。そのため「遺伝学」から「ゲノム学」と表現を変えるようになりつつあります。看護職は現在の医療的知見と対象者の人生背景から導き出される多様なニーズを配慮し対応することが求められています。この公開講座で現時点での知見を説明します。その上でどのように対象者へ対応するか、一緒に考えていきましょう。「21 トリソミー」と「遺伝性乳卵巣癌」を中心にしていきたいと考えています。
9月15日(土)	鹿児島大学医学部 助教 若松 美貴代	妊娠期から考える周産期メンタルヘルス	この講座では周産期に関わるスタッフがメンタルヘルス支援に妊娠期から取り組めるよう、産後に使用する従来の3つの質問紙に加え、妊娠早期から産後うつ病予測リスト(PDPI-R)を使えるよう演習します。また、研修後半では日常のメンタル支援の際に必要な基本的姿勢、傾聴、共感をロールプレイしながら学びます。
10月6日(土)	鹿児島大学医学部 教授 沖 利通	周産期の母体マイナートラブルに対する東洋医学的対処法	不妊治療中、妊娠直前、妊娠成立から出産・産褥期と、東洋医学所見もダイナミックに変化します。本稿ではその過程をまず概説し、さらに、この時期に発生しやすいマイナートラブルに対する対処法を、東洋医学的手法（舌診・脈診・腹診のポイント）を用いて解説したいと考えています。
10月27日(土)	霧島市立医師会医療センター 室長 愛下 由香里 鹿児島大学医学部 助教 田中 一枝	今日から使える授乳姿勢	理学療法士の視点からみた解剖学を活かした授乳姿勢を学んでみませんか？腰痛や腱鞘炎などの痛みがでにくい授乳姿勢を取り入れることで、お母さんたちが楽なポジショニングとなり、必然的に赤ちゃんもラッチオンしやすくなります。乳房の解剖と合わせて、実際の授乳姿勢を実演しながら、現場ですぐ使える授乳姿勢について学びます。